



シンポジウムCOP19/CMP9の成果と課題

2月1日、温暖化防止ネットワーク関西とCASAの共催で、講師に名古屋大学大学院環境学研究科教授高村ゆかり先生をお迎えし、昨年11月ポーランド・ワルシャワで開催されたCOP19(気候変動枠組み条約第19回締約国会議)報告会を開催しました。高村先生からは、これまでの交渉の到達点、ADPを中心としたCOP19の決定事項とその含意、2015年合意をめぐる争点、主要国の最近の動き、今後の課題について約70分にわたり詳しく報告していただきました。

「2014年、2015年は2020年以降の世界、そして日本の温暖化対策の方向性に少なからぬ影響を与える重要な年」であり、2015年まで残り2年しかないこと、先進国だけでなく途上国を含めたルールづくりが必要なことなどから難しい交渉であることは間違いないが、合意を重ねていくことが必要であること、日本は2020年暫定目標を発表したばかりだがそれ以降の目標作成作業を開始する必要があることも報告されました。続

いてCASA専務理事早川より、IPCC第5次評価報告書第1作業部会報告書の内容を踏まえ、日本の2020年の新目標がCOP19の会場でどのように受け止められたか、CASAの「CASA2020年モデル」による検討では原発を再稼働せず、即時に全原発を停止しても、エネルギー需給を賄い、2020年に25%削減は可能という報告がありました。

土田 道代(CASAスタッフ)



原発ゼロを叫ぶ市民の声は核エネルギーを超える

2014年3月9日(日)開催の「さよなら原発3.9 関西行動実行委員会」主宰のさよなら原発集會にCASAと自然エネルギー市民の会(PARE)の会員、スタッフら20名余が参加した。私たちは12時ごろ扇町公園のキッズプラザ入口付近にCASAとPAREのノボリを目印に集合した。

今回の参加では、新規作成のパンフレット「原発も温暖化もない社会を目指して」とちらし「市民の力で福島に市民共同『太陽光』発電所を！」の配布をすることになっていた。私たちは配布物を分担し、約2時間30分で2500部程を大勢の来場者に配った。

次はパレード参加。午後2時頃から約7,000人の参加者は、会場から西梅田方面、市役所方面、天六・梅田方面の三つのコースに別れて行進。私たちは、西梅田方面に向かった。各市民団体や労働者団体等のノボリとプラカードが林立する中、CASAとPAREのノボリもはためいていた。私たちのプラカードは「再生可

能エネルギーを増やし、原発再稼働を許さない」などの文言をアピール。西梅田まで約2kmの道を「全ての原発を廃炉に」等のメッセージを唱和しながら歩いた。

当日ご参加、パンフ等配布して下さった皆さん、配布物を受け取って下さった皆さんに感謝いたします。参加できて嬉しく思っています。

古畑 等(CASAボランティア)

